

報告品目・新キット製品が薬価収載されましたのでお知らせいたします。

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
1	249	内用薬	ディナゲスト錠 0.5mg	0.5mg1錠	166.50円	持田製薬	ジエノゲスト	月経困難症	通常、成人にはジエノゲストとして1日1mgを2回に分け、月経周期2～5日目より経口投与する。	新効能・新用量・再審査期間中の規格追加
2	429	内用薬	イブランス錠 25mg	25mg1錠	5,679.70円	ファイザー	バルボシクリブ	ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌	内分泌療法剤との併用において、通常、成人にはバルボシクリブとして1日1回125mgを3週間連続して経口投与し、その後1週間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。	新効能、新剤形
			イブランス錠 125mg	125mg1錠	22,978.10円					
3	113	注射薬	ビムパット点滴静注100mg	100mg10mL1瓶	2,459円	ユーシービーザパン	ラコサミド	一時的に経口投与ができない患者における、下記の治療に対するラコサミド経口製剤の代替療法 てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）	ラコサミドの経口投与から本剤に切り替える場合： 通常、ラコサミド経口投与と同じ1日用量及び投与回数にて、1回量を30分から60分かけて点滴静脈内投与する。 ラコサミドの経口投与に先立ち本剤を投与する場合： 成人：通常、成人にはラコサミドとして1日100mgより投与を開始し、その後1週間以上の間隔をあけて増量し、維持用量を1日200mgとするが、いずれも1日2回に分け、1回量を30分から60分かけて点滴静脈内投与する。 小児：通常、4歳以上の小児にはラコサミドとして1日2mg/kgより投与を開始し、その後1週間以上の間隔をあけて1日用量として2mg/kgずつ増量し、維持用量を体重30kg未満の小児には1日6mg/kg、体重30kg以上50kg未満の小児には1日4mg/kgとする。いずれも1日2回に分け、1回量を30分から60分かけて点滴静脈内投与する。ただし、体重50kg以上の小児では、成人と同じ用法・用量を用いること。 いずれの場合においても、症状により適宜増減できるが、1日最高投与量及び増量方法は以下のとおりとすること。 成人：成人では1日最高投与量は400mgを超えないこととし、増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として100mg以下ずつ行う。 小児：4歳以上の小児のうち体重30kg未満の小児では1日12mg/kg、体重30kg以上50kg未満の小児では1日8mg/kgを超えないこととし、増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として2mg/kg以下ずつ行う。ただし、体重50kg以上の小児では、成人と同じ1日最高投与量及び増量方法とすること。	再審査期間中の規格追加
4	131	注射薬	アイリーア硝子体内注射用キット 40mg/mL	2mg0.05mL1筒	137,292円	バイエル薬品	アフリベルセプト（遺伝子組換え）	①中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性 ②網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 ③病的近視における脈絡膜新生血管 ④糖尿病黄斑浮腫 ⑤血管新生緑内障	①アフリベルセプト（遺伝子組換え）として2mg（0.05mL）を1か月ごとに1回、連続3回（導入期）硝子体内投与する。その後の維持期においては、通常、2か月ごとに1回、硝子体内投与する。なお、症状により投与間隔を適宜調節するが、1か月以上あけること。 ②③⑤アフリベルセプト（遺伝子組換え）として1回あたり2mg（0.05mL）を硝子体内投与する。投与間隔は、1か月以上あけること。 ④アフリベルセプト（遺伝子組換え）として2mg（0.05mL）を1か月ごとに1回、連続5回硝子体内投与する。その後は、通常、2か月ごとに1回、硝子体内投与する。なお、症状により投与間隔を適宜調節するが、1か月以上あけること。	新キット製品
5	229	注射薬	ヌーカラ皮下注 100mgシリンジ	100mg1mL1筒	179,269円	クラクソ・スミスクライン	メボリスマブ（遺伝子組換え）	気管支喘息（既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者に限る） 既存治療で効果不十分な好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	〈気管支喘息〉 通常、成人及び12歳以上の小児にはメボリスマブ（遺伝子組換え）として1回100mgを4週間ごとに皮下に注射する。 〈好酸球性多発血管炎性肉芽腫症〉 通常、成人にはメボリスマブ（遺伝子組換え）として1回300mgを4週間ごとに皮下に注射する。	新キット製品
			ヌーカラ皮下注 100mgペン	100mg1mL1キット	179,269円					
6	249	注射薬	インスリン リスプロBS注カート HU「サノフィ」	300単位1筒	586円	サノフィ	インスリン リスプロ（遺伝子組換え） 〔インスリン リスプロ後続 1〕	インスリン療法が適応となる糖尿病	通常、成人では1回2～20単位を毎食直前に皮下注射するが、ときに回数を増やしたり、持続型インスリン製剤と併用したりすることがある。投与量は、患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量としては通常1日4～100単位である。	パイオ後続品
			インスリン リスプロBS注ソロスター HU「サノフィ」	300単位1キット	1,258円					
			インスリン リスプロBS注100単位/mL HU「サノフィ」	100単位1mLバイアル	194円				通常、成人では1回2～20単位を毎食直前に皮下注射するが、持続型インスリン製剤を併用したり、ときに投与回数を増やす。投与量は、患者の症状及び検査所見に応じて増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量としては通常1日4～100単位である。必要に応じ持続皮下注入ポンプを用いて投与する。	

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
7	449	注射薬	治療用ダニアレルギーエキス皮下注「トリイ」 1,000JAU/mL	2mL1瓶	4,301円	鳥居薬品	なし(コナヒョウヒダニエキス及びヤケヒョウヒダニエキスを含む水性注射剤)	ダニ抗原による下記アレルギー性疾患に対する減感作療法 アレルギー性鼻炎、気管支喘息	減感作療法の実施に際し、ダニアレルギーに陽性の患者に皮内反応テストを行い、皮内反応閾値を求める。その閾値及びその時々患者の症状に応じ、初回投与濃度及び量、初回後の投与濃度又は量、投与回数、投与間隔並びに維持量は適宜定める。 1. 閾値の求め方 本剤を診断用アレルギー皮内エキス対照液「トリイ」で、1,000、100、10、1、0.1 及び0.01JAU/mL に用時希釈し、さらに患者の症状に応じて低濃度に順次希釈する。最も低濃度の液から0.02mL ずつ皮内に注射し、その反応を皮内反応判定基準に従って判定する。陽性反応を呈した最低濃度(最大希釈度)をもってその患者のアレルゲンに対する閾値とする。 2. 初回投与濃度 患者のアレルゲンに対する閾値の濃度、若しくは患者の症状の程度によってさらにこの濃度の1/10又は1/100の濃度を初回投与濃度とする。 3. 投与方法 通常、初回投与量として0.02~0.05mLを皮下に注射する。初回後の投与量は1週1~2 回約50%ずつ増量し、0.5mLに至れば10倍濃度の液0.05mLにかえて同様に増量しながら投与を続け次第に高濃度の液に移り、維持量に達したら2週に1回の注射を数回行い、その後は1か月に1回とする。 4. 増量及び投与回数 各回の投与後の患者の状態を問診し、その結果に応じて次回投与量を増減する。例えば前回の注射により、喘息発作、全身性蕁麻疹及び鼻症状・眼症状を主とした臨床症状の増悪を起こし、また過大な局所反応を生じたときには増量を見合わせる。また、増量期間中の投与間隔は通常1 週1~2回であるが、間隔が長引いた場合には増量せずに直前の投与濃度の1/10又は1/100の濃度の液を投与する。 5. 維持量 患者において投与可能な最高用量をもって維持量とするが、患者のその時々症状に応じて減量する等適宜投与量を定める。	再審査期間中の規格追加

- ・内容についての詳細な情報又は正確な情報は、添付文書等をご参照下さい。
- ・薬価に関する情報は「官報」でもご確認下さい。
- ・承認に関する情報は「医薬品医療機器情報提供ホームページ」の新薬の承認に関する情報もご参照下さい。
- ・医薬品薬価マスターに関する情報は「診療報酬情報提供サービス」をご参照下さい。
- ・医薬品コードに関する情報は「薬価基準収載医薬品コード表(MEDIS-DC提供)」をご参照下さい。